

令和6年度事業実施結果・評価（快適で安全な教育環境の整備・充実）【基本】、【重点】は市総合計画との関連を示す

S+: 目標を大幅に上回る成果をあげた S: 目標を上回る成果をあげた A: おおむね目標を達成した B: 業務に支障はないが、目標は下回った C: 目標を大幅に下回った

施 策		内部評価		外部評価	
基本 施策 第9 教育 環境 の 整 備 充 実 ・ 支 援	① 教育環境の充実を図ります (1)人材育成の推進 ◇ 奨学金制度の活用 【重点8】 ・ 高校生、大学生等の修学支援 ・ 奨学金制度の周知 ◇ 海外留学支援制度の活用 【重点7】 ・ 英語圏諸外国への語学留学支援制度の周知	○ホームページや広報誌のほか、市内中学校・市内高校生が通う高校にも直接情報提供することで制度の周知は進んでおり、必要とされる生徒へ支援する体制は整備できている。 ○卒業後に市内居住及び市内事業所等に就職した利用者には、条例の改正をして一部免除の措置がとられ、利用しやすい環境整備が進められた。このことも含めて制度の周知を図っていくことが必要である。 △原則返還することが必要な制度であるため、活用する人が少ない。	A	○奨学金は周知が重要であり、HPや広報誌の活用は有効である。 ○田村市の維持発展のためにも、地元で活躍する人材は大切である。一部免除の制度など理解と活用を図り、地元を背負う人材を確保する方策を今後ますます重視していくことが求められる。 ○原則返還は当然だが、一部免除の制度の拡大を希望する声がある。奨学金について関心は高いが、それに比して自治体の奨学金制度を知っている人は多くなく、市民に届く工夫が必要である。貸与式奨学金については、具体的に返済のシミュレーションをHPに組み込むなど工夫した広報活動が必要である。	A
	◇ 児童生徒への費用的支援 ・ 遠距離通学児童生徒への支援 ・ 自転車通学生徒への支援	○ホームページや広報誌のほか、市内中学校・市内高校生が通う高校にも直接情報提供することで制度の周知は進んでいる。 ○R5.9.18に出発してカナダバンクーバーイーエフインターナショナルランゲージキャンパスで学び、R6.6月に帰国した留学生が来庁し、有意義な体験ができたことの報告があった。 △高校生が留学する場合には現在通学している高校を休学することになり、そのことがデメリットとして受け止められている可能性がある。留学で得られる貴重な体験というメリットを発信していく必要がある。 ○今年度の申込みはなかった。	A	○使える英語の習得など留学でしか得られないこともある。ぜひ利用してもらい外国から見た日本、そして故郷田村市を感じ取ってもらえるようにしたい。ホームページや広報誌、市内中学校・市内高校生への制度の周知をますます進めることが必要である。 ○語学留学支援制度については市のHPに掲載されているが、その報告書の中で高校生が慣れない環境の中で、学び成長していく姿が感じられた。この報告書を小学校や中学校に掲示したり、朝のHRなどで読み合わせをしてみると関心を持つ児童・生徒も出てくるのではないかな。	A
	◇ スクールバスの運行管理 ・ 利用計画の策定	○遠距離通学児童生徒の登下校は保護者等による送迎が多くなっている現状があり、保護者の負担軽減につながっている。 ○自転車通学の中学生にはヘルメット購入費が一部補助されており、保護者の経費負担軽減・重傷化防止に寄与できた。また、より高い安全意識の高揚が図られた。	A	○遠距離通学児童生徒への費用支援は、保護者の負担軽減につながっている。 ○自転車通学の中学生への、ヘルメット購入費の一部補助は、保護者の経費負担軽減・重傷化防止に有効である。 児童生徒への費用的支援は、今後も継続することが望ましい。	A
	(3)未来を担うたむらの子応援事業の推進 ◇ 田村っ子の元気を支援する事業【重点6】 ・ 総合学習、体験学習、スポーツ少年団活動、小中学校部活動への支援	○各学校が計画・実施している総合的な学習は、予算を伴う内容が多く、本事業がそのよりどころになっている。体験学習は学校を離れて行う内容になっているものもあり、児童生徒が直接現場で体験できるメリットは大きいことから、学校からも大いに期待されている。 ○スポーツ少年団活動は、学校外の子どもの居場所になっており、心身の成長に大きな役割を担っている。学校外での充実した活動を進めていくためにも本事業は貢献できている。	A	○各学校の総合的な学習における本事業の果たす役割は極めて大きい。特に、児童生徒が現場で体験できるメリットは大変大きい。 ○スポーツ少年団活動は、他者との対戦や挨拶等の関りで普段の学校生活とは違う良い刺激になり、成長につながっている。また、学校外の子どもの安全で有意義な活動場所になっている。充実した活動を進めるためにもこの事業を継続していく事が有意義である。 ○小さい頃からホンモノに触れることは大切である。安全に配慮しながら、市内にある宝を子供たちが発見できる事業の応援を推進していくことが期待される。	A

令和6年度事業実施結果・評価（快適で安全な教育環境の整備・充実）【基本】、【重点】は市総合計画との関連を示す

S+: 目標を大幅に上回る成果をあげた S: 目標を上回る成果をあげた A: おおむね目標を達成した B: 業務に支障はないが、目標は下回った C: 目標を大幅に下回った

施 策		内部評価		外部評価	
基本 施策 9 教育 環境 の 整 備 充 実 ・ 支 援	㊟ 教育施設的环境整備に努めます (1) 学校施設長寿命化対策事業の推進 【重点10】 ◇ 田村市学校施設長寿命化計画に基づく教育環境の整備 ・ 各学校の経年劣化の状況をふまえた計画的な整備及び修繕	○ 学校施設の維持管理及び修繕については、係を中心に学校からの要望に基づいてきめ細かく対応にあたっている。業者との連絡等についても遺漏なくできた。 △ 給食センターダクト改修工事が当初予定よりも長引き、夏季休業後の給食提供に影響が出たため、代替給食を実施した。このことによる混乱はなかった。	A	○ 学校施設の維持管理及び修繕は学校からの報告・要望によることが第一義であるが、事故があつてからでは取り返しがつかないことになってしまうため、教委からの積極的な対応が必要である。施設改修については、予算が関係することではあるが、安全最優先の視点から計画的に進めていくことが必要である。 ○ 学校敷地内に街灯が設置され、住民からも安全が目視できるのは良いことである。	A
	(2) 学校の安全管理と事故防止対策 ◇ 児童生徒の安全な学校生活のための環境整備 ・ 安全点検後の迅速な改善 ・ 防火管理体制の強化 ・ 通学路の点検と危険箇所の解消 ◇ スクールバスの更新等 【重点11】 ・ 老朽化したスクールバスの更新 ・ スクールバスの安全対策 ・ スクールバスの効果的運用	○ 安全点検後の学校からの報告については迅速に対応し、改善できた。 ○ 防火管理体制の充実に向け、各学校の防火診断の結果をもとに消防署の指導も受けながら改善に努めて各校に伝え、職員の防火意識を高めることができた。 ○ 通学路の合同点検の結果をもとに、各学校通学路の危険箇所等を情報共有することができた。地域学校協働本部など地域の方々の協力を得て、指導にあたることを学校に助言した。 ○ 老朽化の更新を視野に入れてスクールバスの安全対策に万全を期して委託業者と連絡を密に対応してきたため、トラブル等もなく効果的な運用を進められた。 ○ 児童生徒の安全な交通手段を確保するため、修繕が必要な車両の不具合には、迅速に対応した。	A	○ 安全点検後の学校からの報告について迅速に対応し、改善することについては、今後とも継続していくことが必要である。 ○ 各学校の防火診断の結果をもとに消防署の指導を受け改善したことは適切な対応で評価できる。今後とも各校での防火意識を高めるよう指導が必要である。 ○ 通学路の合同点検の結果をもとに、各学校通学路の危険箇所等を認識し地域学校協働本部など地域の方々の協力を得て、指導にあたることは大切なことである。 ○ スクールバスの安全対策は毎日のことであり、万全を期すことが必要である。委託業者と連絡を密にし今後も効果的な運用を進めることが求められる。 ○ 児童生徒の安全な交通手段を確保するため、修繕が必要な車両の不具合に迅速に対応したことは極めて大切な事であり、評価できる。 ○ 児童生徒の数が減少傾向にあるならばバスというよりは10人乗りぐらいのワゴン車で代替することも今後検討していく必要がある。	A
	㊟ 学校規模・配置の適正化を推進します (1) 学校規模・配置の適正化 ◇ 学校規模・配置適正化の推進 ・ 中長期的な視点からの学校規模適正化の推進 ・ 統廃合等に伴う廃校の維持管理 (2) 地域に根差した特色ある学校支援 ◇ 特認校制度の導入 ・ 都路小中学校指定	○ 令和5年4月統合した学校の運営に支障のないよう学校と連携をとって教育効果が高められるようにしてきたため、統合そのもののメリットを児童・保護者地域住民が味わえるようになってきている。今後とも教育効果を高められるような学校規模適正化に向けて、情報収集に努めていく。 ○ 市内小学校より都路小学校への転入希望の問い合わせが1件あり、丁寧に説明した。	A	○ 今回、統合した学校の教育効果が高まらなければ、説明がつかなくなってしまう。教育委員会が率先して統合のメリットを児童・保護者地域住民が味わえるようリードすることが必要である。これからも、児童生徒のために教育効果を高められるような学校規模適正化に向けて、努力することが求められる。廃校施設の利活用について具体案・検討案など、必要に応じて情報提供することが求められる。	A

令和6年度事業実施結果・評価（快適で安全な教育環境の整備・充実）【基本】、【重点】は市総合計画との関連を示す

S+: 目標を大幅に上回る成果をあげた S: 目標を上回る成果をあげた A: おおむね目標を達成した B: 業務に支障はないが、目標は下回った C: 目標を大幅に下回った

施 策		内部評価		外部評価	
基本 施策 10 教育 行政 の 円 滑 な 推 進	④ 教育委員会の活性化を図ります (1) 開かれた教育委員会 ◇ 教育委員会の透明性を高める取組み ・ 所管事務の調査や施設等の視察 ・ 会議運営の工夫と公表	○施設等の視察を通して教育委員に現場の状況を把握していただいたことで、事業のさらなる推進に向けて積極的に意見交換がなされた。 ○教育委員が内容を把握して出席できるよう資料を事前配付したことで活発な議論となり、充実した会議となった。会議以外でも委員と事務局が密に連絡をとり意見交換がしやすい運営ができています。会議結果についてはホームページで公表し、市民に周知できるようにして透明性を高めることができた。 ○教育委員会定例会の配布資料をパソコン端末の利用により、ペーパーレス化の経費削減に努めた。	A	○百聞は一見に如かずのとおり、教育委員と担当者が施設等の視察を通して、現場の状況をしっかり把握できるので、今後とも各学校や施設への積極的な視察を継続することが期待される。 ○教育委員への資料の事前配付によって、充実した会議となり、委員と事務局が意見交換しやすい運営ができていますことは望ましい。会議結果はホームページでの公表により、市民に周知できるようになっていることもよいことである。	A
	(2) 教育委員会施策の評価と公表 ◇ 教育委員会施策の内容を高める取組み ・ 教育大綱に基づく重点事業の設定 ・ 教育振興推進プログラムの自己評価 ・ 外部評価委員会の定期開催 ・ 議会報告と市民への公表	○教育振興推進プログラムの自己評価を進めるとともに外部評価を受けて改善に生かすマネジメントサイクル(P-D-C-A)の下、事業を見直していく体制が整備されてきた。議員一人一人にも報告書を配布し、実施事業への理解が深められた。	A	○教育振興推進プログラムの自己評価、外部評価を改善に生かすマネジメントサイクル(P-D-C-A)が機能している。 ○議員一人一人への報告書を配布により、実施事業への理解が深められた意義は大きい。	A
	(3) 教育アドバイザーによる実施事業支援 ◇ 教育大綱に基づく事業実施支援 ・ 各課実施事業への助言	○アドバイザーからの意見を受け、教育大綱・事業報告書について3課全体を通して一貫した形式に整備することができた。 ○3課の事業実施に市民目線でアドバイスを受け、円滑な実施につながった。	A	○アドバイザー活用により、教育大綱・事業報告書について3課全体を通して一貫した形式に整備することができたことは意義がある。内部・外部共に円滑な事業実施に努めていくことが必要である。	A
	⑤ 教職員のための相談体制を整備します (1) 教職員の心身の健康管理支援 ◇ 教職員の健康状態の維持・向上 ・ 教職員支援プログラム(EAP)事業	○市内教職員の心の健康状態を把握し、心配な状況にある場合には、医師の面接等を勧めることができた。 ○管理職(教頭)を対象に「セルフケアと管理職としてのEAP相談室の活用」と題して、研修会を実施しEAP相談室の理解を深めた。	A	○市内教職員の心の健康状態を把握し、問題がある場合には医師の面接等を勧めるなど心の病の未然防止に効果があると考えられる。 ○教頭を対象にしたセルフケアとEAP相談室の活用に関する研修会を実施は意義がある。各校教頭への心と体の両面でのケアは大切である。	A
	(2) 学校からの相談体制整備 ◇ 学校からの相談対応支援 ・ スクールロイヤー助言	○スクールロイヤーの弁護士から学校現場で起きているトラブル等の対処にかかる法的な見解を聞くことができ、各学校の校長から安全・安心な学校運営を進める上で大いに役立ったとの感想が数多くあった。	A	○大なり小なり日常茶飯事的にトラブルは発生するもの。法的な見解で対処の助言を聞けることは頼もしい。弁護士による相談体制の構築は、法的な裏付けを持って学校運営にあたれるので非常に有効である。 ○弁護士から具体的な事例を基にした講演を聞くことができ、校長から安全・安心な学校運営を進める上で大いに役立ったとの感想が数多くあったことから効果的であった。	A